

## 510) 休日出勤

その日は電気系統の検査をするとかで、終日停電すると掲示に出ていた。エレベーターも止まるし、電気も点かないが6時ごろには復旧すると言うことだったので、5時半ごろ会社に行って少々の雑用を片づけて、月曜の朝の会議に必要なコピーを、かなり取る予定でクルマで出社した。会社に着くと幸いなことに、今テスト通電するので、10分ぐらいではあるがエレベーターが動くというのである。私はこれ幸いとばかり24階のデスクに潜り込むことに成功した。うまくすればこの10分間にコピーも取れるかも知れない。デスクに行くなり、コピーのスイッチを入れて、機械が温まるまで待つことにした。機械が温まってコピーを3セットだけ取ると再び停電になった。「ウームあと7セットだったのに、残念！まっ果報は寝て待てというから仕方ないか。」とばかりに応接室に行って、ソファーに腰を下ろして電気が着くのを待つことにした。ところがしばらくすると、どういうわけかトイレに行きたくなった。それも大の方である。日頃なれ親しんだ会社だから、電気がなくても歩くことはできるし、こんな時でも、階段や通路には非常灯が付いている。トイレまでは難なく行けたが、トイレの中はさすがに真暗だ。それでも手探りでトイレにしゃがんで用を足すと、真暗な分、気持ちを集中できるせいか、まさに快便ではある。気分爽快になってウオシュレットのボタンを押すと、アリア、ウントモストモ言わない。そうだこいつも電気で動いてたんだ。しょうがない。紙で拭こう。再び手探りでトイレトペーパーなるものに手をやると、アイヤ、これはおかしい。どう探っても紙がない。巻芯だけがカラカラと空しい音を響かせているではないか。「ムムムッ、紙ギレかー！こいつはヤバイことになったぞっ！どうしよう。」どうもこうもない。ズボンを下ろしたまま、いたく不自由な格好で、再び手探りで、一步また一步と、隣のトイレボックスまでホフク前進である。やっとの思いで、お隣まで辿り着き、紙を探った。「ウ〜ン、あったあった。よかったよかった。」ほうほうのていでお尻を拭こうとしたその途端、パッと電気が点いたのであります。その姿の不恰好なこと。それにしても他人に見られなくて良かった。まさに不幸中の幸いだったのであります。